

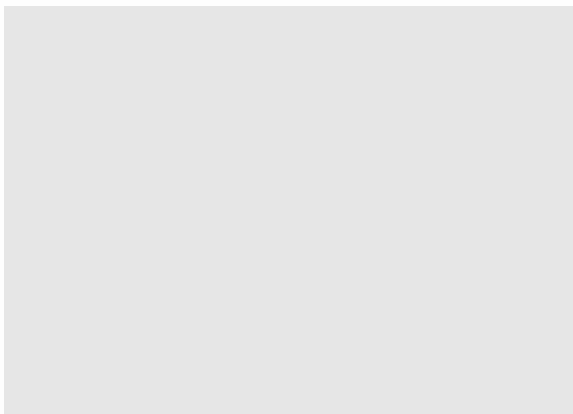
# 学会報

(二〇〇三年一月)

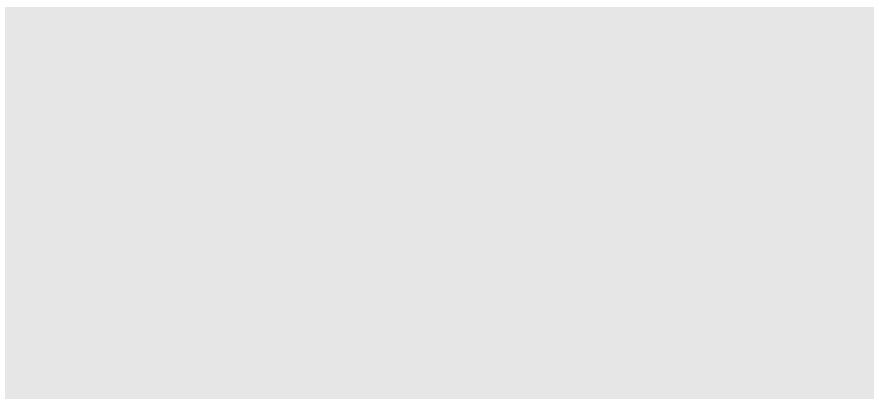
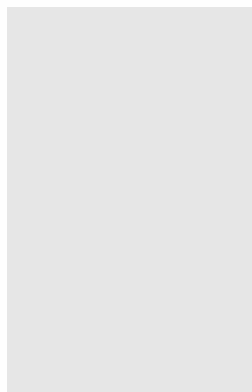
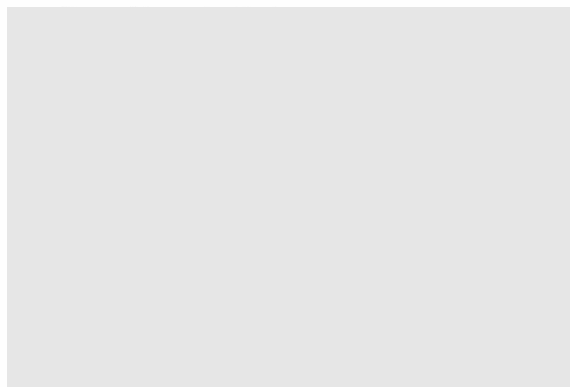
二〇〇四年五月)

◇二〇〇三年度に提出された修士論文・卒業論文は次の通りです。

一、大学院修士論文



二、文学部卒業論文



※論文名・氏名  
リポジトリ非公開

◇公開講演会

十二月二日（火）午後四時十分より

於 メディア・ホール

「マンダラとは何か」

国立民族学博物館教授

立川武蔵氏

講演終了後に畑かくにおいて立川先生  
を囲んで懇親会をもった。

◇研究発表例会

十二月十八日（木）午後四時十分より

於 尋源講堂

「バリリ律からみた日本の僧尼令につ  
いて―僧尼令七条を中心にして―」

大学院博士後期課程第三学年

ウディタ・ガルシンハ氏

「説一切有部の分位縁起説」

任期制助手 箕浦暁雄氏

「浄土教の相承説について」

教授 木村宣彰氏

◇卒業論文梗概発表会

一月十四日（水）午後四時十分より

於 尋源講堂

発表終了後に全員で記念写真を撮り、

その後ビッグ・ヴァレー（学生談話

室）で送別懇談会をもった。

◇小川一乗先生最終講義

二月二十五日（水）午後四時より

於 メディア・ホール

「大乘のなかの至極―親鸞における大

乗の仏道体系―」

講義終了後にホテルプリンセス京都に

おいて囲む会をもった。

◇新入会員歓迎記念講演会

四月二十三日（金）午前十時四十分よ

り 於 メディア・ホール

「インドのおどろき」

仏教学会会長 小谷信千代教授

## 編集後記

『佛教学セミナー』第79号をお届けします。今回も発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

本号には論文三篇と公開講演会の筆録を掲載することができました。論文は日本仏教・中国仏教・インド学と内容が分かれ、くしくも本学の仏教学の分野の広さを示したものとなりました。

ローズ論文は、一〇世紀半ば頃の叡山浄土教の形成期に重要な役割を果たした千観について、その主著『十願発心記』に基づいて彼の菩薩行を浄土往生との関係の中で論じたものです。織田論文は、中国仏教において「縁起」という語がどのように捉えられ、定着していったかを羅什・慧遠・玄奘などの用例を基に論じたものです。山本論文は、インド思想において重要な課題であり続けた認識手段、中でも重要な知覚と聖言について、九一〇世紀にかけて活躍した正統パラモン思想のヴァーチヤスバティ・ミシユラの

考え方を彼の幾つかの著作に基づいて考察したものです。

講演筆録は昨年一二月に開催されました公開講演会、立川武蔵教授（当時国立民族学博物館）「マンダラとは何か」の講演のテープを起こしたものに立川先生ご自身に手を入れていただいたものです。仏教を含めたインドの宗教や思想が密教化する中でマンダラが創作されてきたこと、マンダラの意味などをスライドを交えて判り易く話していただきました。今回は会場での質疑応答も掲載いたしました。

本号には新刊の書評や紹介を掲載することができませんでしたが、書評や紹介に取り上げる最新の業績に関しては会員諸氏からの要望もお聞きしたいと思いますので、ご意見を編集部までお寄せください。

○五年度からカリキュラムが大幅に変更になります。『仏教学セミナー』もその変更に沿ってそれを側面から支えられるようにと希望しています。